

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

玉山神学院との交流

前号に続いてアヌさんの実習報告を掲載します。今回も皆さんからこの交流プログラムのためにたくさんのご献金をいただきました。感謝を持って会計報告をさせていただきます。ありがとうございました。

交流実習感想

二〇一七年七月



玉山神学院
王士勤 Anu

神様が私に日本での夏期実習の機会をお与え下さったことに、感謝しております。今回の実習は、これまでの私の人生において、最も忘れがたい経験の一つとなりました。といいますのも、私にとって初めての海外経験だったからです。日本といえば、漫画の「ワンピース」がすぐに浮

かびますが、それ以外は何も知らないまま、今回の実習へと旅立ちました。出発の数日前から期待と不安が込み上げ、眠れない夜が続きました。知らない土地で大丈夫だろうかと悩みましたが、きつと得がたい経験になると信じ、興奮と緊張を抱えながら飛行機に乗りました。飛行機の中でも不安でしたが、日本へ到着して空港で東のぞみさんに会うと、その緊張がだんだんとほぐれました。驚いたことに、東さんから「ニーハオ」（こんにちは）と声をかけられたのです。しかも「ウニナン」（ブヌン語のありがとう）とも言われるので、本当に驚きました。初めての国で、まさか自分にとって最も身近なこれらの言葉を最初に耳にするとは思っていませんでした。そこから私の緊張は安心へと変わり、いよいよ日本での学びが始まったのだな、という気持ちに切り替わりました。

私たちはまず、横浜の寿で実習をしました。新幹線のホームに沼田弘行さんが迎えに来てくださり、しかもコミュニケーションがとれるよう中国語が書かれたカードを準備しておられました。寿では三森妃佐子牧師と寿日雇労働組合の近藤昇さんが地域の歴史と現状や支援活動について説明をして下さいました。その後、三森牧師の案内で日中の炊き出しやバザー、夜回り訪問を行いました。この数日間には本当に暑くて体力も消耗しましたが、路上で出会う人々の笑顔や、人から関心を向けられた時に見せる表情に、深い喜びが込み上げてきました。このとき、誰かの助けとなる働きができるのは本当に嬉しいことなのだ、と実感しました。寿での三森牧師の姿勢から、キリストが弟子たちの脚を洗った出来事を思いかえし、信仰による愛は言葉で表現するのではなく、他者への関わりによって示されるものだと感じました。

イザヤ書四二章三節「傷ついた葦を折ることなく、暗くなくてゆく灯心を消すことなく、裁きを導き出して、確かなものとする」
弱さを抱えた人々が、心から求めるものを見つめる三森牧師のまなざしは、その人々の尊厳を回復する道標であると、感じました。

次に私たちが向かったのは、東京にある農村伝道神学校です。自然が豊かで、すばらしい所だと思いました。また、先生も学生もとても暖かい方々です。高柳富夫校長から学校について学び、食堂では学生と交流することができました。食事中は通訳の方がいませんでしたので、身振り手振りでコミュニケーションを図りましたが、それでも互いの信仰や考え、国や文化の違いについてなど、伝え合うことができました。学校では日本の「もてなし」について学ぶことがたくさんありました。客人の受け入れ方や、振る舞われるごちそうから、日本人の温かさを知り、主にある交わりを実感しました。忘れられないのは、私の携帯電話が壊れてしまった時のことです。鳥羽加陽子さんがすぐに車を出して中国語が通じる電気店に私を連れて行って下さいました。途中で警察に交通違反で止められるハプニングもありましたが、修理も無事に済み、本当に助かりました。鳥羽さんをはじめ、出会った学生のみなさん心から感謝しています。

次に私たちは大阪へ向かいました。小林明牧師が神社やお寺を案内して下さいました。続いて、フィールドワークを通して日本社会にある在日コリアンへの差別や、被差別部落について、また併せて売買春の課題について学びました。このフィールドワークによって、私の日本に対する印象が少しずつ変わっていききました。それまで日本といえば漠然と、さらびやかで安定しており、生活も幸福度の高い国という印象でしたが、実際にはそうした繁栄の背後にはこんなにたくさんの方々の不公平や社会的な問題が横たわっていることを知りました。被差別の状況におかれていらっしゃる人々は、様々な形で日本基督教団の協力を得て、政府や一般の人々に権利回復を訴え、状況の改善を求めています。しかしその声は政府に届いているにも関わらず、積極的な改善へと進んでいません。被差別の状況下で様々なストレスや不公平な立場が強いられるのです。こうした状況における最大の問題は、人間の心の中にあると思っています。周縁におかれている人々と、私は一人の人間として同じ存在です。私たちの心向きによって状況

は変えられると信じています。箴言四章二三節「何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある」

日本において一人ひとりの心の内に、このみ言葉が刻まれますよう、願っています。一人の心の変化によって、社会における被差別の問題が変わっていくことを私は信じています。

次に私たちは北海道へ向かいました。三浦忠雄牧師とDiyam 牧師が迎えて下さいました。心強いことに、Diyam 牧師は私たちと同じブヌン民族です。北海道では三浦牧師より、アイヌ民族の歴史や文化について学びました。Diyam 牧師もアイヌ民族にゆかりのある博物館などに案内してくださいました。お二人が用意されたプログラムは座学にとどまらず、アイヌ模様の彫刻体験や、伝統楽器の「ムックリ」の奏法を教えていただくなど、様々なものでした。そうした学びを通して、アイヌ民族が置かれている現状を知りました。特に、政府による先住民族への政策について学びましたが、それらは不十分であると感じました。台湾では現在一六民族が政府から先住民族として認定され、生活していますが、やはりこちらも不十分なところがたくさんあります。しか

し、先住民族の権利保護を目的とした法律によって、生活や教育、財産保護などの面では、一定程度、安定している実績があります。台湾と日本で大きく異なるのは、アイヌ民族が当然の権利を得られず、また差別も厳しい状況にあるために、自らの出自や文化、言語、伝統的な生活などを誇りに思うことができない環境に置かれているところではないかと思えます。同じ先住民族として、日本の政府や人々がより関心を高め、アイヌ民族を心から尊重し、共に文化を守り、生活がきちんと保障される法律を整備していただくよう、強く願うものです。最後の実習地は、名古屋でした。島しづ子牧師より、重度の心身障がいを抱えた人々との生活や支援活動について学びました。案内していただいた施設では、自立が困難な人々が生活しています。スタッフの手厚い介護を目の当たりにし、深い感銘を覚えま

されたのかをよく理解されています。全てを捧げてこの人々に尽くし、仕えておられる姿勢に多くを学びました。この度の実習について思い返すと、感謝の気持ちでいっぱいになります。実習の間、わたしたちを受け入れて下さった方々に感謝しております。また通訳として同行して下さいました先生方がいなければ、これほどたくさん学びを得ることができなかったでしょう。農村伝道神学校が私たちに日本での実習を準備して下さいたことを本当に感謝しています。また、東さんとDiyam 牧師が私たちに伴ってください、とても楽しい時を過ごすこと

ができました。この実習は私にとって一生の忘れがたい宝物です。マタイ福音書二五章四〇節「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれられたことなのである」このみ言葉のように、日本でたくさん牧師がキリストの愛を實踐されている姿勢から、私たちは多くを学び、また励ましを受けました。私も皆様方のように生活の中で弱さを抱え、助けを求めている人々に寄り添い、この社会において神の国が実現されることを求め歩む者となり得ますよう、願っています。

2017年度台湾交換交流会計報告（2017年4月～10月）

収入		
2017/4～2017/10	献金（44件）	401,322
	前年度繰越金	232,174
	収入の部 合計	633,496

支出		
2017/4～2017/10	研修費（交通費・食費を含む）	415,782
2017/4～2017/10	通訳等の謝礼	215,315
	合計	631,097
	次年度繰越金	2,399
	支出の部 合計	633,496

★ 2016年度会計：前年度繰越金¥197,174
次年度繰越金¥232,174

夏期実習報告（八名）

四年 松田拓実

農村伝道神学校での最後の夏、私は川崎戸手教会に行つてまいりました。牧師には、とにかく私がこれだと思った事をやればいいといわれ、説教や奏楽、聖書研究、そのほか牧師の補助以外に何をやればいいのかなと考えていたときに、どの教会にも若い人が少ない事は同じだなと思いつつ、炎天下三〇歳の僕だからこそ出来る事をやろうと思ひ、まず草刈りを徹底的にやり、そして教会入り口脇に土を持つていつて花壇を作りました。草がなくなつた教会を見てとても喜んでくれたのが、水曜日の高齢者サロンに来ている近所の林さんという方でした。高齢者サロンでは地域の高齢者の方を呼び、食事を作つて一緒に食べるということをしていきます。何かあつたら、地域の高齢者の方の家へと飛んでいつて人助けをしている牧師の姿を見て、これほどにも周辺の地域に開かれた教会を見るのは初めてでした。実習後も、母教団での奉仕の一方で、台風後の泥の撤去作業など、戸手に通っています。地域に開かれた教会をこれからも学び続けたいと思います。

三年 吉野 結

私はこの夏、夏期実習で北海道と九州の鹿児島に行きました。

北海道では二つの教会、鹿児島でも二つの教会を訪ねながら、実習を通して様々なことを考えさせられました。

一番大きく心に残ったことは、疲弊した地方の問題とそこに存在している教会のことでした。

実際に生活が営まれているそれらの地域は、シャッター通りが目立っていました。

高齢化し人口減少に悩まされている人々と教会員の姿がありました。その中に存在する教会はこの現実にとのよう

に抗っていくのか？様々な問いが私の心中を去来しました。

そのような現実在に在って教会は、何をどのように伝えるのか？という根本的な問いがあつたように思います。

二年 鳥羽加陽子

夏の教会実習では具体的な教会での働きを体験し、現場を少しでも知れる貴重な経験と、自分の課題を見定めるこ

とが出来た有意義な実習となりました。また、召命というものを改めて考えさせられる良い機会となりました。多くの方々になぜ神学校に入学したのか？なぜ牧師を目指しているのか？と質問されま

す。その度に自分を振り返る機会を与えられ、学校の授業の中では深め切れない考えや思いを、初めての方々との出会

いから見つめ直すことが出来ました。

そこから思わされた一つのこととは、自分で牧師になるとか、自分が牧師になるのではないということでした。多くの人との出会いの中で祈りの内に支えられ、忍耐をもって見守られ、牧師としての務めをなす者として、整えられ立たせてもらうように思わされました。実習を受け入れて下さった堀川伝道所、碧南教会、刈谷教会の先生方、信徒の皆様方に改めて心からの感謝を申し上げます。

二年 稲益久仁子

多くの方々との出会いを通して充実した現場での学びをさせて頂きました。「差別を受けていた人々も差別から解放されますように。差別をしない人々も差別意識から解放されますように」という、東谷誠運営委員長の祈りの言葉

に秘められた思いに心を探られる実習の日々でした。

部落差別は何の根拠もないのに差別だけが受け継がれ、人の尊厳を傷つけ、また奪う行為です。それが現代においても続いているという事実に驚きました。狭山事件のような冤罪、就職差別・結婚差別で苦しむ方々からお聞きする

事実は、自分自身が持つ差別意識を見つめ直す作業へと変えられました。

「差別」は簡単には無くならない。だからこそ取り組みが必要なのです。差別問題を扱った『解放劇』から心に残った言葉があります。「差別は差別を受ける側にその問題を転化するが、そうではない。差別する側に問題があるのだ。」

二年 上杉理絵

社会実習先にキリスト教関係の施設ではない、アルコール依存症回復施設にお願いしました。アルコールに限らず依存症が回復する効果的なものとして、ミーティングとAAの「二ステップ」というプログラムがあり、その中に「自分なりに理解した神」「ハイヤーパワー」「霊的体験」というものが出てきます。アルコール依存症の現場で、みなさんがどのような「神」に出会っているのか、それを知り

たいと思いました。

今回の実習では、アルク内でのミーティング、作業所での封入や自主製品製作業、外でのアクティビティ、AAミーティング、AAセミナー、相談室でのサロンなどへの参加をさせて頂きました。依存症からの「回復」という言葉が使われていますが、それは、アルコールからの回復と同時に自分自身との回復、神との関係との回復と見ることもできるかもしれません。

二年 原弓子

寿アルクの現場には、いつも神さまが共にあるのを感じられました。

する諸団体と連携しながらこれまで様々な活動や運動を展開してこられたことを知りました。

「共に在る」ことの実践そのものだと思います。私は毎日様々な現場で体当たりしながら、「共に在る」ことを理性や言葉だけでなくどれだけ正直に向き合い行動できるか、自問自答し続けたひと月でした。今もそれは続いています。

二年 松永明夫

メノブレッジへ一ヶ月間社会実習に行きました。日本メノナイト友愛教会の宣教師でもあるエップ・レイモンドさんとパートナー荒谷明子さんご家族が中心の農園です。

札幌から車で約一時間の夕張郡長沼町にあります。農業のお手伝いを主にしました。メインはジャガイモの収穫でした。天候を問わず早朝から畑に出ます。午前中の仕事の前には、小さな礼拝のように打合せを行います。食前の祈りは欠かしません。夕食後早々と床に就くという規則正しい生活。信仰の篤さを感じました。黙々と行う農作業は禅のようでした。

「懐かしい未来を創る会」という地域社会活動では、『種を継ぐ人々』というドキュメンタリーで、種子が大企業によ

行事報告

り独占されていく過程とその影響を学びました。都会では単なる思想活動の一環となりがちでも、地方では周囲との生活に摩擦が出かねないリスクを鑑みず活動する姿に、私の日々の姿勢について考えさせられました。

二年 山田原野

八月の一カ月間、教会だけでなく、教会と共に歩む幼稚園とNPOさんまクラブでもお世話になり、様々な活動を体験することができました。特に、さんまクラブは最も長い間携わり、子どもたちと貴重な体験をすることができました。

教会としては大きくない水口教会に、こんなにも多くの子どもが集まってくることに教会の持つ力を感じました。実習最後の日曜日、信徒の皆様一人一人から説教の感想等のお言葉をいただきました。最初の日曜礼拝の時から温もりのある教会だと感じていましたが、改めて一人一人の言葉を聴いて、私のことを本当に温かい心で見えてくださっていたんだなあ、と思いました。今では神学生生活の大きな糧となっっています。水口教会、水口幼稚園、NPOさんまクラブの皆様、ありがとうございました。

前日、三春で高速を降り、双葉町、大熊町、富岡町と、いわゆる帰宅困難地域を車で訪ねた。家々は軽合金の格子でブロックされ、草が生い茂り、立ち入ることができない。ところどころに一時帰宅者を乗せたマイクロバスが停まっていた。少し走っては「この先通行禁止」の立て看板に阻まれ、数人の人たちが白い防護服を着て立っていた。引き返して少し走るとまたこの看板に突き当たる。線量計で放射能を計りながら走ったが、突然五マイクロシー

◆神学校日礼拝には、下記の教会に学生を派遣した。(申し込み順) 埼玉和光、上大岡、横浜港南台、六角橋、大泉、上星川、飯能、川崎戸手、まぶね、三鷹、小諸、船越、三・一、城西
◆一〇月二日(土) 農伝デイ・オープンキャンパス
講演会:「祈りと霊性の旅」青木義子氏(礼拝堂にて)
◆一〇月八日(日) 校長は西仙台教会の神学校日礼拝でメッセージを担当した。

「Jean's Garden オープン」

昨年の秋から始まった中庭プロジェクト。最初は一人の学生から始まり、すぐに学友が協力してくれて、一緒に考えながら進んでいった。まずは雑草を抜くところから。手を入れ、少しずつお花を入れていくと、みなさんが喜んでくれるようになった。そうすると中庭も喜ぶように、どんどんとお花が育っていった。学友や事務の方からのカンパ、学生会からお花の予算がつき、お花が増えていき、事務



の方々、教師たちの協力もあり、さらに中庭が自ら生き生きと育っていくようになっていく。「ここに名前をつけよう!」という提案があり、ストーン宣教師の妻の名前「Jean」に決まった。九月二十七日にJean's Garden オープンセレモニーが行われた。讚美歌六〇番が歌われ、祈りの中、そこにジンさん、ストーンさんがいるようだった。この日は、Jeanさんのお誕生日というミラクル。これから一緒に、この庭を愛で育ててくださることでしょう。

上杉理絵

ベルトを軽く超えてしまうところも散在した。あの立っている人たちは確実に被爆している。その人たちの積算線量を測るためのスクリーニング所の前を数カ所通過した。人々が検査のために並んでいた。道路脇の建物、商店、ガソリンスタンド、レストランなど、すべてが草に覆われ、錆びつき、廃墟と化していた。「復興」とは程遠い現実が目の前に広がっている。衆院選の候補者たちは一人残らずこの現場に裸足で立つべきだと強く思いながら、改めて厳しい現場の真実に圧倒された一日であった。

理事・評議員会報告

神学校のストーン記念館中庭を整備し、AR.Stone 宣教師の妻の名からJean's Garden とした。理事中平望氏の逝去、評議員大澤錦一氏と大倉一郎氏の退任により、理事評議員を補充する。鶴川シオン幼稚園は認定条件も園に移行するための諸手続き、園舎改修、教員人事等を進めている。東京都は認定条件も園認可のために神学校を含めた法人全体の経営安定を求めている。神学校は授業料等による収入超過を想定しておらず、幅広い方々の支えによって成り立っている。一層のご支援をお願いしたい。

(書記 横野朝彦)

お知らせ

- ◆一月二日(火) 今年度第一回入学試験
- ◆二月一日(金) 待降節礼拝
- ◆二月二日(火) 一六日(土)「接心」指導:佐藤研氏 詳細は事務室までお問い合わせください。
- ◆一月五日(金) 一二月六日(金) 第二回入学願書受付
- ◆一月三〇日(火) 農村伝道シンポジウム
- ◆二月二〇日(火) 今年度第二回入学試験
- ◆二月二〇日(火) 一三三日(金) 集中講義「部落解放」講師:小林明氏
- ◆三月七日(水) 第六八回卒業式

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ: http://www.noden.server-shared.com

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418